

消費者庁 各府省からの第2次回答

整理番号	提案区分		提案事項 (事項名)	求める措置の具体的内容	具体的な支障事例	制度改革による効果 (提案の実現による住民の利便性の向上・行政の効率化等)	根拠法令等	制度の所管・関係府省庁	団体名	その他 (特記事項)	<追加共同提案団体及び当該団体等から示された支障事例(主なもの)>	各府省からの第1次回答
	区分	分野										
74	B	地方に対する規制緩和	医療・福祉	食品の特別用途表示の許可申請に係る都道府県経過事務の廃止	【支障事例】 旅行制度では、食品の特別用途表示の許可申請は、営業所の所在地の都道府県(窓口は保健所)を経由して消費者庁に提出することとされている。また、許可書についても、消費者庁から都道府県(本庁、保健所)を経由し、申請者に送付される。実質的な審査等は消費者庁が行っており、都道府県のやっている事務は必要書類や審査項目の確認といった形式的なものであり、都道府県を経由することによって、却って実質的な審査開始までに時間がかかっている。なお、申請書は郵送による提出が可能のため、保健所が窓口となる必要はないものと考えられる。	【制度改革による効果】 都道府県の経過事務を廃止し、申請者が直接、消費者庁に申請することにより、直ちに審査が開始できるなど、申請事務の効率化が期待できる。	健康増進法第26条第2項	消費者庁	愛知県	—	茨城県、石川県、徳島県、熊本県 ○県による審査は形式的なものであり、廃止により効率的で迅速な審査が期待される。 ○許可要件に関する詳細な質問については窓口である保健所では明確な回答ができず、消費者庁へ問合せする事になり時間がかかると共に、細かなニュアンスの違いなどにより誤解を生じる可能性がある。 ○保健所が申請書提出の窓口になることは、申請者にとってメリットがない。 ○未満事業者からも、速やかな事務処理に関する要望があるため、都道府県の経過事務を廃止していただきたい。	申請者のとおり、健康増進法第26条第2項に規定する都道府県の経過事務廃止については、年次を非途に検討し、地方分権一括法による改正を行う。ただし、経過事務を廃止した場合であっても、同法第26条に規定する立入検査及び収去等の許可後の監視指導が、引き続き、都道府県においても適切に行われる必要があることから、特別用途食品の許可書の送付を国から直接申請者に行なった際などは、当該食品に係る情報について、営業所の所在地の都道府県と共有する等運用面について、別途検討を進める。

管理番号	各府省からの第1次回答を踏まえた提案団体からの見解		各府省からの第1次回答を踏まえた追加共同提案団体からの見解		全国知事会・全国市長会・全国町村会からの意見	提案事業検討専門部会からの主な再検討の視点(重点事項)	各府省からの第2次回答
	見解	補足資料	見解	補足資料			
74	<p>本県の意向に沿った回答である。</p> <p>高、立入検査及び収束等の許可後の監視指導に係る情報共有の検討に当たっては、都道府県の負担にならないよう進められたい。</p>	-	-	-	<p>【全国知事会】 提案の実現を求める。</p> <p>【全国市長会】 実現にあたっては、営業所の所在地を所管する都道府県が特別用途表示の許可情報を十分に把握できるような方策について検証を行い、都道府県に許可情報を通知する等の対応を求める。</p> <p>【全国町村会】 提案団体の提案の実現に向けて、十分な検討を求める。</p>	-	